

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	カナダ	
学校名	静岡県立清水南高校	氏名	笹本のの	学年	2

私はカナダのトロントで3ヶ月間「落書きとアートの違いは何か」という探究テーマのもと探究活動を行う留学をしました。

### 1 今回の留学の目的

今回の留学の大きな目的は、「落書きとアートの違いは何か」という問いを、海外の現場で実際に考えてみるということです。小さい頃、壁に絵を描いて怒られた経験があり、「同じように描いているのに、紙だと褒められて壁だと怒られるのはなぜだろう」と疑問に感じていました。この経験がきっかけとなり、ストリートアートについて興味を持つようになりました。

日本にいるだけでは分からないことも多いのではないかと感じ、実際にストリートアートが盛んなトロントに行き、「現地の人はどう考えているのか」「街の中でアートはどんな役割を持っているのか」を知りたいと思いました。現地の作品を見るだけでなく、人の話を聞き、自分の目で街の雰囲気確かめることを目的にしました。



←日常に定着したストリートアート

また、外国の文化の中で生活してみることで、視野を広げたいという思いもありました。日本とは違う言語や価値観の中で、自分の考えを伝える力や、自分から行動する姿勢を伸ばしたいと考えていました。さらに、日本文化について説明したり体験してもらったりすることで、自分自身が日本の文化を理解し直すことも目標に含めていました。

### 2 留学前の準備と事前研修で考えたこと

留学前には、事前研修に参加して自分の目的や目標を整理した。研修では、安全面や生活面の注意点だけでなく、「なぜ留学するのか」「何を学びたいのか」を改めて言葉にして考える時間がありました。

自分の探究テーマを説明するとき、うまく言葉にできない部分もあり、「自分は何を知りたいのか」をもう一度考え直すきっかけになりました。また、全国に同じように挑戦しようとしている同世代の人がいることを知り、心強く感じ、自信が持てるようになりました。

準備として、ストリートアートに関する本や記事を読み、トロントの街についても調べた。写真を見るだけでは分からないことが多く、「実際に見たらどう感じるのだろうか」という期待と少しの不安を持ちながら、出発の日を迎えました。

### 3 留学中の活動内容

現地では、まずストリートアートが多い地区を歩いて回り、気になった作品を写真に撮りながら記録していました。作品そのものだけでなく、「どんな場所に描かれているのか」「人が立ち止まって見るのか、それとも通り過ぎてしまうのか」という点も意識して観察しました。



同じ壁画でも、人が集まり写真を撮る場所もあれば、ほとんど見られないまま放置されている場所もありました。そこから「作品そのものだけでなく、場所や人との関係で意味が変わる」ということを実感しました。

美術館やギャラリーにも足を運び、展示されているアートとの違いを比べました。静かな展示室で見る作品と、街の生活の中にある作品では、見る側の姿勢も大きく変わり、展示室では作品と向き合う時間が長くなる一方、街の中では日常の一部として存在していることが分かりました。

さらに、現地の人や学校の友達にインタビューを行いました。

・落書きとアートの違いは何だと思うか・ストリートアートを見てどう感じるか・街にとってプラスかマイナスか、などを質問し、さまざまな意見を聞きました。「許可があるかどうか」「公共物を汚していないか」といった視点のほか、「地域の雰囲気を良くしている」「観光につながっている」「自分の考えを表す手段」という意見も聞くことができました。

#### 4 日本文化紹介・アンバサダー活動

アンバサダー活動として、水墨画のワークショップを行った。墨や筆、半紙を準備し、簡単な説明をしたあと、実際に描いてもらう体験を中心にした。最初は「難しそう」と言っていた人も、にじみやかすれを楽しむうちに、自由に表現するようになっていきました。

完成した作品を見せ合いながら感想を話す時間も作り、線の太さや濃淡の違い、思い通りにいかない部分が味になることなどを共有しました。日本の伝統的な表現方法に興味を持ってもらえたと感じることが出来ました。

浴衣の着付け体験や味噌汁づくりも行いました。実際に着たり食べたりする体験は言葉だけより伝わりやすく、「日本の文化」を身近に感じてもらうことができました。こちらにとっても、日本の文化について改めて説明する良い機会になりました。

実際に来てもらった浴衣→



#### 5 留学中に感じたこと・考えたこと

留学中は楽しいことばかりではなく、うまくいかないことや戸惑うことも勿論ありました。英語が聞き取れなかったり、自分の言いたいことがすぐに言葉にならなかったりして、悔しい思いをする場面も多々ありました。

しかし、失敗しないように黙っているより、まずは伝えようとするのが大事だと感じるようになった。完璧ではなくても、相手が理解しようとしてくれることで会話が成り立つ体験を重ね、自信につながりました。

また、日本では当たり前だと思っていたことが、海外では必ずしも当たり前ではないことにも気づきました。挨拶の仕方、時間の感覚、授業中の発言の仕方など、さまざまな違いに触れる中で、自分の考え方が広がっていくのを感じました。

#### 6 成果

探究面の成果として、「落書きとアートの違いは作品だけでは決まらない」という結論にたどり着きました。関係しているのは、

・描かれた場所・許可の有無・地域との関係・見る人の受け取り方・社会への影響

など、複数の要素であることが分かりました。語学面では、英語でのコミュニケーションに対する抵抗が小さくなりました。聞き取りや表現が完璧でなくても、「伝えたい」と思って行動すれば通じる場面が多いことを実感しました。生活面では、自分で考えて行動する場面が増え、自立心が育ったと感じています。困ったときにすぐに誰かに頼るのではなく、気付けばまず自分でどうするか考える習慣がついていました。

#### 7 今後の目標と日本への還元

今後は、今回の経験を日本での活動に生かしていきたいです。アートに関心がある人もあまりない人も参加できるようなワークショップを行い、「表現することの楽しさ」を広げたいと考えています。

ストリートアートや水墨画、ケーキを使ったアート体験など、身近な素材や方法でアートに触れられる場をつくりたいです。そこから「落書きとアートの違い」を一緒に考えるきっかけにもしていきたいです。また、学校や地域での発表の場があれば、留学中に感じたことや多文化理解の大切さについて伝えていきたいです。将来は、日本と海外をつなぐ存在として活動できるよう、学びを続けていきたいと思っています。

#### 8 まとめ

今回の留学は、これまでの学校生活では得られなかった多くの経験を与えてくれた時間でした。現地でストリートアートを見て回り、人の話を聞き、日本文化を紹介する活動を行う中で、「落書きとアートの違い」という自分の探究テーマについて深く考えることができました。作品そのものだけでなく、場所や社会とのつながり、人々の受け取り方によって意味が変わることを知り、アートを見る視点が大きく広がったと感じています。

また、言葉や文化が違う環境で生活したことで、自分の考えを自分の言葉で伝えることの大切さや、まずは行動してみる姿勢の大事さを実感しました。うまくいかない場面もありましたが、それも含めて自分の成長につながったと思います。日本について説明する機会も多く、自分の国の文化を見直すきっかけにもなりました。これからは、アートや文化を通して人がつながる場をつくること、日本と海外を結ぶ存在として活動することが目標です。今回の留学で得た学びを大切にしながら、これからの自分の行動に生かしていきたいと考えています。

#### 9 今後の探究の展開

今回の留学を通して得た気づきや体験をもとに、今後も探究活動を続けていきたいと考えています。これまでは主に「落書きとアートの違い」について見てきましたが、今後は「アートが社会にどのような影響を与えるか」という点にも視野を広げていきたいです。とくに、街づくりや観光、コミュニティづくりとの関係に注目しながら、アートの役割について調べていく予定です。また、海外だけでなく、日本の街や地域で見られるストリートアートや公共空間の表現にも目を向け、比較しながら考えていきたいと思っています。ワークショップや発表の機会を通して、周囲の人の意見も取り入れながら、自分の考えをさらに深めていきたいです。今回の留学は、探究を「課題」としてではなく、「自分が本当に知りたいこと」として向き合うきっかけになりました。これからも自分の興味を大切にしながら、学びを続けていきたいと考えています。